

事業計画書

事業名	ママになったらここにおいて わが子と開く未来のドア
実施場所	沼津市内の地区センター
実施予定期間	2018年4月1日～2019年3月31日

◎実施内容

日 程	実施項目・作業項目
	<p>※イベントや研修会等の行事日程だけでなく、実施内容(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会)、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、事業期間すべてにわたる実施内容を記載して下さい。</p> <p>①産後からの切れ目ない支援の受け皿を団体同士のネットワークを構築&仕組みを作ることで親子が自由に選んで気軽に交流できる市内の居場所と情報の提供(居場所の提供は各団体が担当制にて行なう)。</p> <p>②市内の子育てサークル及び子育て支援サークルのネットワークの構築と各団体の活動の運営サポート&アドバイス(全ての回で行う)。</p> <p>対象：産前～就園前の親子、及び子育てサークルの運営者 人員配置：各回、ファシリテーター(運営サポーター・危機管理サポーター・子育て相談専門家サポーター含む)3名配置。 居場所の内容については各回担当団体の主体性を尊重し、サポート&アドバイスしていく。</p> <p>日時：2018年4月 10:00～12:00 市内子育てサークル及び子育て支援サークルのネットワーク構築会議(事業計画・役割分担・悩みの共有等)・運営サポート及びアドバイス 会場：沼津市青少年教育センター</p> <p>2018年5月 担当：「子育て応援サークルいちご」 会場：沼津第三地区センター 参加人数：親子30名</p> <p>2018年7月 担当：「りんごの木」 会場：門池地区センター 参加人数：親子30名</p> <p>2018年9月 担当：「さくらんぼ」 会場：片浜地区センター 参加人数：親子30名</p> <p>2018年12月 担当：「子育て応援サークルいちご」・「りんごの木」・「さくらんぼ」・「VIVAMAMA」・沼津情報ビジネス専門学校「子育てサロン」・「バイリンガルマムズ」コラボクリスマス会 会場：沼津情報・ビジネス専門学校(未定) 参加人数：親子50名</p>

2019年2月
担当：VIVAMAMA
会場：沼津市青少年教育センター
参加人数：親子30名

2019年3月
市内子育てサークル及び子育て支援サークル
報告会・ネットワーク構築会議・運営サポート及びアドバイス
会場：サンウエルぬまづ

◎事業効果

※事業の効果を記載して下さい。

ソフト部門のステップアップ型事業・ハード部門4事業については、事業効果に対して、客観的な評価ができるよう、成果指標と数値目標を設定するなど、その検証方法を必ず明記して下さい。

2017年、「一般社団法人いちご」を立ち上げ、「子育て応援サークルいちご」は現役ママの居場所として今後も活動を継続。活動をサポートしていく。

「一般社団法人いちご」は、子育て応援サークルいちごでの10年の実績、様々なまちづくり活動を通じ、今後は、地域の点と点の活動を線で繋げ、その線を笑顔の輪として繋ぐ「人を繋げる、地域を繋げる、未来に繋げる」団体として目的を果たしていきたいと考える。

◆「産前・産後サポート事業ガイドライン（平成29年8月）」のデイサービス（参加）集団型の事業に沿った事業として、地域の母親同士の仲間づくりの交流支援、妊産婦の家庭や地域における孤立感の解消・母親の身体的・心理的安定のための相談支援・コミュニティの構築（マタニティ期・産褥期・産後・乳幼児期・子育て世代・その後の繋がりを育む切れ目ない支援に繋げる）・安心して妊娠期を過ごし、育児に臨めるようサポートの実績となる。

◆市内の地区センターで活動する子育てサークル・子育て支援サークルを当事業で支援することによって、行政だけではカバーしきれない部分の子育て応援力が高まると考えられる。また、それらの団体の活動をまちづくりの面から、産前～就園前の子育てに向き合っている家庭に広報することによって、子育て中の親子が情報の中から自分に合った居場所を選択できる、沼津市で子育てをすることに安心感を覚え、参加者・活動団体の交流がさらに活発になり、子育てしやすいまちづくりとして繋がる取り組みとなる。

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを確認して下さい。

<p>公益性</p>	<p>※不特定多数の住民の利益の増進、地域のまちづくりの推進に寄与する事項等を記載して下さい。 産前～未就園児の子育てを家庭で行っている親子にとって、子育てサークル・子育て支援サークルは市内の日々のを支える心強い居場所である。当事業では沼津市内の地区センターを活動拠点にしている団体の運営サポートや支援を行い、子育て家庭に居場所としての認知度を高めることによって、地区センターの利用者増加、活動団体の活性化、利用者としての親子が地域と交流しながら子育てできる環境を高めていく可能性を持っている。</p>
<p>発展性</p>	<p>※活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。 市内には、当団体だけではなく複数の子育て団体があります。 これまで、互いの事業に参加したり、情報交換をする程度の関わりから踏み込み連携して事業を行っていくことにより、それぞれの団体の経験・人脉などを共有していくことが可能となり、更なる事業規模の拡大と基盤の安定化が図れるものと考えます。</p>
<p>地域性</p>	<p>※地域の実情・課題の解決に向け工夫した点、地域資源の活用などについて記載して下さい。 子育て支援＝保健センター、子育て支援センターと認知度の高い場所で開催するだけではなく、市内の地区センター＋拠点としている活動団体で取り組み、また年間を通じて複数会場で行いそれを広報することによって、市内の地区センターや子育て支援活動の認知度を高め、利用者数の増加が見込める。また、活動団体の取り組みを応援することで、地域の子育て支援の活性化も期待できる。</p>
<p>必要性</p>	<p>※事業を実施する意義や、補助金の交付が有益で質の高い事業展開につながる理由について記載して下さい。 現在、厚生労働省から「産前・産後サポート事業ガイドライン」が公表され、それぞれの自治体が「子育て世代包括支援センター」の設置を求められています。 同センターは、妊産期から子育て期にわたる様々なニーズに対して、地域の様々な団体と連携して総合的な対策を採っていく方針とされていることから、当団体をはじめ市内の子育て団体が、その担い手となっていくためには、同事業の実施により、それぞれの団体が活動基盤を安定させ、経験を積んでいくことが必要だと考えます。</p>
<p>先導性</p>	<p>※事業の新規性や独自性など、工夫した点について記載して下さい。 産後～就園前までの時期は、住んでいる地域の環境や保護者の選択によって子育ての状況が左右されやすく、情報が得られないことで産後孤立してしまう親子も存在する。行政主導のパパとママの教室から切れ目なく産後の支援に繋げていける居場所を提供し、認知度を上げていくことがこれからの子育て支援に必要であり、特に今回は各地区センターを拠点とする団体の子育て支援活動と合わせて、個別に対応のできるファシリテーターを配備することで、よりママと赤ちゃんに寄り添った地域活動の案内が可能になると考えている。</p>
<p>継続性</p>	<p>※助成事業終了後も継続的・自立的な活動とするために、どのように取り組んでいくかについて記載して下さい。 市内各地区センターで活動を行っている団体の運営サポートを行い、当事業や広報で認知度を上げることが、それぞれの団体の次の活動へつながると考えられる。また、利用する親子の開拓にもつながり、交流が深まることによって、参加の親子の中から子育て支援を応援する次の力が生まれることも期待される。</p>